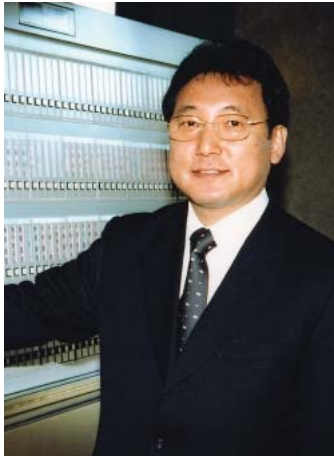


会員便り

小75、大中高18期 樋口 俊一



小学部75期、大手前中学、高等学部18期卒業の樋口俊一です。このたび江本孟紀参議院議員の大阪府知事選挙出馬に伴う参議院議員失職により、本年1月23日、総務省中央選挙管理委員会より比例代表の繰り上げ当選証書を頂戴しました。追手門の卒業生として

では中山泰秀衆議院議員について2人目だそうです。今回山桜会の会報に、卒業生の国会議員の一人として記事を掲載させていただき感謝しております。学校時代の思い出と共に、国会活動の一端をご報告させていただきます。

追小を卒業して40年もあり追手門学院小学部には昭和32年(1957年)に入学しました。当時小児喘息を患っており、咳き込みながら入学試験を受けたことを、かすかに覚えています。小学一年の時だと思いますが、ウサギ狩りがありその時のトン汁?がおいしかったこと。体は小さいほうで、背の高さは前から3~4番目でした。ですから高学年の運動会で組み立て体操をしますが、いつもピラミッドなどを作るときは上のほうで、未だに高所恐怖症です。また、追手門は小学校でも剣道を教えていましたから、冬の寒稽古は寒い朝、冷たい床に正座をし、厳しい環境にも耐えることを学んだように思います。私は3年生まで京阪電車で京橋から通っていました。4年生からは八尾市に引越しをし、近鉄電車と市電を使って通うようになりました。6年生のある日、弟と登校途中、弟の同級生たちが市電の中で騒いでいたのを、同乗の人が学校に通報されたのでしょう。担任の先生から「上級生として下級生の指導も出来ない者は教室で立っている」と、一日立たされた事がありま

した。今の先生はこれほど厳しい躰をされないと思います。一方、小さな親切運動が当時行われていて、お年寄りに電車の中で席を譲ったりしたらバッジが貰えました。社会全体で倫理観を養っていたと思います。

中学になると成績でクラスが変わる制度になっていて、クラスを行ったり来たりしていました。クラブではワンダーフォーゲル部と化学部に所属しましたが、最初の六甲山縦走でキャラバンシューズとスキー靴を間違えて履いていくなど、そそっかしい面が多々ありました。化学部では、ニトログリセリンを作ろうとし失敗を繰り返していました。あまり学校での授業や勉強の思い出は少なく、修学旅行など課外活動のことのほうが色々思い出されます。

今日、学校教育が様々な面で社会から注目を集めています。文部科学省は子供たちの創造性を養うため「ゆとり教育」を推し進めてきました。その結果、文部科学省が公表しました小中学校学力テストの分析結果では、計算の基本的な約束事を身につけておらず、問題の意味さえ理解できない子供の実態も判明しています。そのような中、学力低下を招くとの批判に対し「学力重視」に政策転換してきました。このように「ゆとり教育」とか「学力重視」といったスローガンに左右されるのではなく、「志」を育てる教育が望まれていると思います。私立の小学校は全国でも1%しかありません。私個人の経験としても、小学校から英語に触れる事が出来た環境は素晴らしいものがありました。大いに追手門の特徴を教育現場の中に具現化してもらいたいと思っています。社会が精神的に荒廃している今日、倫理観や仕事の大切さなどを、側面的に支援していく事も私たち卒業生の役割があるのではないかと感じています。私立の学校としての特性を今後とも発揮できるよう国政の場で援助できればと思っています。



小94期 中山泰秀 氏

平成16年度は参議院議員1名、昨年は衆議院議員1名と国政の場に二人の山桜会会員が誕生いたしました。衆議院議員 中山泰秀氏(小94)には、次号にて、母校の思い出として、会員便りに登場していただきます。